

まちづくり 関連事業

沼田町

～農村型コンパクトエコタウンの取組～

取組経緯

沼田町では、人口減少や高齢化の進行といった課題を抱える中で、公共施設の維持や行政サービスの持続性が大きな課題となっていました。特に、同町は豪雪地帯に位置していることから、分散した居住や施設配置のままでは除雪費をはじめとするインフラ維持コストが増大し、将来的な行政運営に支障をきたすおそれがありました。また、医療機関及び商業施設の老朽化に伴う建替え問題も顕在化しており、医師確保の困難さや財政負担の制約を踏まえると、入院機能を備えた医療機関を維持することは現実的ではない状況でした。

こうした複合的な課題を背景に、沼田町では生活機能の集約を図る「農村型コンパクトエコタウン構想」を推進しています。

輝け雪のまちイメージキャラクター



ピカゾー君



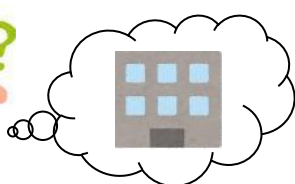
スノンちゃん

取組概要

沼田町は「農村型コンパクトエコタウン構想」の実現を目指し、「歩いて暮らせるまち」をコンセプトに掲げています。これは、旧JR石狩沼田駅を中心とした半径500m圏内に役場、医療、福祉、教育、商業といった生活機能を集約する取組です。その中核施設として整備されたのが、平成29年に開設された「暮らしの安心センター」です。同施設は、無床診療所である「沼田町厚生クリニック」をはじめ、デイサービス、リハビリ、子育て支援、交流スペースなどを一体化した複合施設となっています。

また、施設整備にあたっては合意形成のプロセスを重視し、町民参加型のワークショップを実施しました。沼田町の特産品であるトマトを通貨に見立て、限られた予算の配分を疑似的に考え、医療系、福祉系、商業・交流系、住宅系の各カテゴリー内の優先順位を検討しながら進めるなど、住民が主体的にまちづくりに関わり

つつイメージを共有する工夫がなされています。



暮らしの安心センターについて

暮らしの安心センターは、沼田町が進める「農村型コンパクトエコタウン構想」の中核を担う施設として旧中学校跡地を利用して整備されたものであり、それぞれの地域課題に対応するための重要な拠点です。

本施設は「沼田町厚生クリニック」を中心に、デイサービスやリハビリ、子育て支援、交流機能などを一体的に配置した複合施設として整備されています。これにより、医療・福祉・生活支援を一か所に集約するだけでなく、交流スペースの設置により住民同士のつながりを生み出す場としての役割も担っています。さらに立地の面でも、中心市街地にあるため、「歩いて暮らせるまち」を実現するうえでの核として機能しています。

このように、同施設は単なる医療福祉施設ではなく、高齢者支援ゾーン、快適住宅ゾーン、多目的交流ゾーンを含む都市構造の再編と一体となった包括的なまちづくりの拠点として整備されたものです。整備にあたっては、特定地域再生事業費補助金や地域再生戦略交付金等の各種交付金を組み合わせて財源を確保しながら進められました。

現在は、住民の入居ニーズを見つつ「あるくす団地B棟」の建築について検討が進められています。



健康運動指導士による教室の様子



なかみちラウンジ（交流スペース）

今後の課題と展望

沼田町は、田舎暮らしの本2021年版第9回「住みたい田舎」ベストランキングの北海道エリアにおいて、3年連続で第1位の評価を受けています。「いつまでも幸せに暮らせるまちづくり」の実現を掲げており、直面する課題として、運営にかかる収支・老朽化、雇用にかかる人材確保があります。そのため、人手不足のなかでも生き残れる持続可能なまちづくり、地域資源を大いに活用した活力と潤いのあるまちづくり、人にやさしく、自然にやさしいDX・GX戦略に関して将来に向けた検討を始め、産・官・学・民による沼田版CCRCを展開しています。